

今回登録される建造物の概要

<大嶽山興福寺 1件>

大嶽山興福寺は、旧は羽黒山修験道場として栄えた天台宗寺院です。境内は、大嶽山上に書院及び庫裏のほか、極彩色の観音堂や擬洋風の六角堂（いずれも登米市指定文化財）を配しています。

名称	建築年代
おおだけさんこうふくじ 大嶽山興福寺 しょいんおよびくくり 書院及び庫裏	明治中期／大正11年・昭和56年改修
特徴	
<p>西側を寄棟造の書院、東側を入母屋造の庫裏とし、書院正面東端に唐破風屋根を付す。書院は、前後二列配置を基本に素朴に造るが、北西座敷の床構えに色ガラスを用いるなど、先駆的な試みも見せる。</p>	
 	

<旧菅野屋勘兵衛（廻船問屋菅勘資料館） 3件>

旧菅野屋勘兵衛は、旧登米町寺池にて廻船問屋を営んだ商家で、現在は町屋ミュージアムとして活用されています。短冊形の敷地内通り側に旧店舗と主屋、そしてその後方に穀蔵と文庫蔵が伝わり、明治時代の商家の屋敷構えを良くとどめています。

名称	建築年代
<small>きゅうかんの やかん べ え かいせんだん やかんかん しりょうかん</small> 旧菅野屋勘兵衛（廻船問屋菅勘資料館）	主屋 明治22年頃／昭和48年・平成20年改修

特徴

木造平屋建、きりづまづくり切妻造鉄板葺で、東北面に下屋を廻す。げや内部は一系列四室とし、とこつき最奥を床付の座敷とする。庭に向けて開放的な造りを見せる。



【写真：登米市教育委員会提供】

名称		建築年代
<small>きゅうかんの やかんべえ かいせんとん やかんかん しりょうかん</small> 旧 菅野屋勘兵衛 (廻船問屋菅勘資料館)		<small>ぶんこぐら</small> 文庫蔵
明治23年		
特徴		
<p>二階建の土蔵造^{しづくい}棧瓦葺。外壁は漆喰^{はちまき}で軒先まで塗り込めて鉢巻を廻し、腰・下屋との取り合い、軒下^{なまこかべ}を海鼠壁とする。内部は二重梁の小屋組を現す。重厚な敷地景観を形成する建物である。</p>		
		
【写真：登米市教育委員会提供】		

名称		建築年代
<small>きゅうかんの やかんべえ かいせんとん やかんかん しりょうかん</small> 旧 菅野屋勘兵衛 (廻船問屋菅勘資料館)		<small>こくぐら</small> 穀蔵
		明治32年頃／平成20年改修
特徴		
<p>二階建の土蔵造^{しづくい}棧瓦葺で、二階窓に庇が付かない以外は文庫蔵と同様の造りとなる。文庫蔵よりやや小ぶりで簡素ながら、敷地景観に重厚さを加える建物である。</p>		
		
【写真：登米市教育委員会提供】		

<旧山田本店（ヤマカノ醸造） 6件>

登米汽船を創業し、また登米町長等を務めた山田家の旧屋敷で、戦後、現在のヤマカノ醸造が当地に移転し、建物等を引き継ぎました。通りに面して商蔵・門・文庫蔵を置き、その後方に各蔵を配置する、大型の屋敷構えを現在に伝えます。

名称	建築年代
<small>きゅうやまだほんてん やまかのじょうぞう しょうぐら</small> 旧山田本店（ヤマカノ醸造） 商蔵	昭和前期
特徴	

土蔵造二階建，寄棟造棧瓦葺。外観は腰石張り，開口がガラス戸で鉄格子をはめ，二階正面の腰を海鼠壁とする。近代的な意匠を強調した店蔵で，老舗醸造店の重厚な表構えを作る。



【写真：登米市教育委員会提供】

名称	建築年代
<small>きゅうやま だほんてん やまか のじょうぞう</small> 旧山田本店 (ヤマカノ醸造)	昭和前期
<small>ぶんこぐら</small> 文庫蔵	
特徴	
<p>土蔵造二階建，切妻造棧瓦葺。外観意匠が商蔵と類似し，一連の建築とみられる。底の銅板被覆，石造りの床下換気口，檜造りを基調とした内観等，近代建築の特色をもち，商蔵・表門と並び立つ景観を形成する。</p>	
	
【写真：登米市教育委員会提供】	

名称	建築年代
<small>きゅうやま だほんてん やまか のじょうぞう</small> 旧山田本店 (ヤマカノ醸造)	明治後期
<small>きたぐら</small> 北蔵	
特徴	
<p>土蔵造二階建，東西棟の切妻造棧瓦葺。柱はすべて檜材とする。外壁腰部は海鼠壁とし，二階桁行の側に開口部を設け，二重腕木<small>うでぎ</small>の庇を付す。醸造で栄えた商家の屋敷構えの変遷を伝える。</p>	
	
【写真：登米市教育委員会提供】	

名称	建築年代
<small>きゅうやまだほんてん やまかのじょうぞう</small> 旧山田本店 (ヤマカノ醸造)	<small>みなみぐら</small> 南蔵
明治前期	
特徴	
<p>土蔵造二階建，東西棟の切妻造棧瓦葺。柱は，梁が架かる主要柱を檜，他は杉とする。外壁は腰を高く切り上げ，鉢巻を海鼠壁風とし意匠を凝らす。敷地内で最も古い建物である。</p>	
	
【写真：登米市教育委員会提供】	

名称	建築年代
<small>きゅうやまだほんてん やまかのじょうぞう</small> 旧山田本店 (ヤマカノ醸造)	<small>きゅうしこみぐら</small> 旧仕込み蔵
大正後期	
特徴	
<p>開口部が少なく，閉鎖的で大規模な土蔵。洋小屋組風の疑似トラスで大梁と束を帯鉄・ボルトで締める。山田家が醸造業を営んだ時期の仕込み蔵で，機能をおびてつを重視した造りで醸造場の中核となる。</p>	
	
【写真：登米市教育委員会提供】	

名称	建築年代
<small>きゅうやま だほんてん</small> <small>やま かの じょうぞう</small> 旧山田本店 (ヤマカノ醸造) 表門	昭和前期
特徴	
<p>切妻造^{きりまきぞう}棧瓦葺^{せきわぶき}，総檜造^{むなもん}りの棟門^{むねもん}で門扉には潜^{かづり}りが付く。楣^{まぐさ}上部の欄間^{らんま}は檜^{ひのき}の一枚板^{まいまいいた}で，腕木^{もちおくり}下持^{しももち}送^{すけ}に渦紋^{うずもん}，柄振板^{えぶりいた}に渦葉^{うずば}の絵様^{えさま}を，懸魚^{げぎよ}に雲^{くも}と鶴^{すかしぼ}の透彫^{すかしぼり}りを付す。社寺建築^{しゃじけんちく}風の装飾^{さうじき}豊かな外観^{がいかん}意匠^{いせう}をもつ近代和風^{きんたいわふう}建築^{けんちく}である。</p>	
	
	
【写真：登米市教育委員会提供】	

<旧山田本店（角田屋） 1件>

ヤマカノ醸造の北隣に位置する角田屋には、旧山田本店の座敷蔵が残ります。山田本店の番頭を務めた角田家が、昭和22年頃に山田家から引き継いだと伝わります。

名称	建築年代
<small>きゅうやまだほんてん</small> <small>かくたや</small> <small>ざしきぐら</small> 旧山田本店（角田屋） 座敷蔵	昭和5年

特徴

土蔵造二階建，切妻造棧瓦葺。外観は上下階とも腰を海鼠壁，戸前廻りは洋風意匠とする。二階に八畳の座敷を設け，柱・床^{とこまち}框等は檜材で透き漆塗り。良材を用い，内外観ともに優れた意匠がみられる。



【写真：登米市教育委員会提供】

<旧佐忠商店（富谷宿） 2件>

佐忠商店は、旧奥州街道富谷宿のほぼ中央に所在します。天保年間創業の商家で、太物・荒物や雑貨商を営み、現在は地場産品等を取扱う「富谷宿」として利活用されています。

名称	建築年代
<small>きゅう さちゅうしょうてん とみやじゆく</small> 旧佐忠商店（富谷宿）	明治後期／昭和20年代・同50年代改修
<small>てんぼおよ おもや</small> 店舗及び主屋	

特徴

土蔵造二階建の店舗と木造平屋建の主屋からなる。店舗正面外観は、白漆喰塗と海鼠壁の外壁上部に黒漆喰塗の鉢巻三段を廻し、おうぎたるき扇垂木風の軒とする。重厚感ある街道景観を形成する。



【写真：富谷市教育委員会提供】

名称	建築年代
<small>きゅう さ ちゅうしょうてん とみやじゆく もん</small> 旧佐忠商店(富谷宿) 門	昭和前期
特徴	
<p>店舗正面東側に建つ門。本柱上に冠木<small>かぶき</small>を渡して扉を開き、冠木上の束から腕木を出して軒の深い切妻屋根を支える。壁は漆喰塗とし、冠木の上には欄間を飾る。店舗とともに街道景観を形成する。</p>	
	
【写真：富谷市教育委員会提供】	